

大阪 海外安に圧迫され弱含みのまま下旬入り

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は依然として弱基調がつづいている。電炉間の入荷にバラ付きが残るほか、季節的要因によって来月以降は需要も多少なりとも回復へ向かうことが市況を下支えする材料となつつも、トルコを中心とした海外市場の軟化にまだ歯止めがかかっておらず、弱含みのまま3連休明けを迎えそうだ。同地区電炉のH2実勢値は2万3500~2万4000円、新断バラ同2万5500円中心(一部上値2万6000円)、鋼ドライ粉バラ同1万9500~2万円(同2万1000円)見当で推移。

14日の下げ改定以降、東京製鉄は17日からの製品販売の発表と同時に売り出しを行っていることが支えとなり、鉄スクラップ市況も一旦は落ち着きを取り戻しつつある。市況の長期下落によって、市中在庫は少なくなっており、価格の高低で電炉入荷にバラ付きを生じさせたまま2度目の3連休を迎えている。電炉筋の多くは連操で消費した在庫を一定水準まで回復を図る必要があるなかで、月内に共同輸出船積み(5,000ト)が予定されているため、本来の月末環境の荷動きに至るかは不明な部分も多い。また、今月で夏季減産期が終

了し、季節的要因を受け、電炉生産も9月比で増加へ向かいやすい時期にあり、それに合わせて鉄スクラップ需要が今月に比べて増えてくることも、電炉側に一定のプレッシャーをかけそうのため、「ヤード入荷もピーク時に比べて減少しており、徐々に不足気味なところも出てくるはず。需給面で見れば、価格対応には慎重にならざるを得ないのでは」(ヤード業者筋)との声が聞かれる。

一方、海外市場の軟化に歯止めがかかってこない。世界最大輸入国のトルコが製品販売不振のおおりに受け、段階的に成約価格を引き下げており、欧州産同国向け輸出指標価格は17年2月以来となる230ドルを割り込んだ。韓国・現代製鉄も19日に日本側と商談を行った結果、新断1,500円、他1,000円の値下げを実施し、H2 FOB2万5000円、新断同2万8500円へ後退。国内相場を上回る水準ながらも、内外環境を踏まえ、次回商談についても値下げを要求すると見られるだけに、「海外市場が底入れしておらず、需給に関係なく、東鉄や輸出の影響を受けやすい状態にあるのでは」(商社)と先安観測を強めたようだ。

近畿工業、三木工場公園内に新工場「TOMOE FACTORY」を建設

～高品質な破碎機刃物を生産～

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市中央区栄町4丁目2番18号、和田知樹社長)は三木工場公園内に新工場を建設する。高度化・多様化する廃棄物処理・リサイクルニーズに対応すべく、自社開発及び製造を手掛ける高品質な破碎機用刃物の安定供給を目指す構えだ。

新工場の「TOMOE FACTORY(トモエファクトリー)」は同社の主力製造拠点である三木工場(兵庫県三木市別所町巴20、敷地面積約3万㎡)から自動車ですら三分ほどの場所に位置し、総敷地面積は約9,400㎡、建屋面積約5,200㎡で今年3月から工事に着工し、来年4月からの本格稼働を計画している。

製造工程や動線の設計を専門家へ依頼したことで、無駄を省いたレイアウトとなっており、現在、トモエプラント(兵庫県三木市)で手掛ける二軸せん断式破碎機の刃物製作及び摩耗した使用済み刃物の再生事業や三木工場の機械加工工程を「TOMOE FACTORY(トモエファクトリー)」へ集約する。ロボットを活用し、機械加工工程の多くを自動化することで、従来比1.5倍の生産能力向上を見込む。また、粉体レーザー肉盛溶接設備を導入し、硬度が高く、破碎性能や耐久性に優れた高品質な刃物を生産する。

近畿工業は1948年に創業。2004年に廃家電製品等の鉄・銅・アルミなどが複合した金属素材を高精度・高

効率に成分回収する捻砕技術の開発で文部科学大臣賞を受けたほか、2011年には兵庫県ものづくり技術大賞も受賞した。発売開始から30年で2,000台以上の販売実績を持つ二軸せん断式破碎機は国内トップシェアを誇り、2015年には業界初となる工業系雑品処理に特化した「スーパーシュレッダー」のほか、2017年に自動車電装用モーター(ワイパーモーターやパワーウィンドウモーターなど)、小型工業用雑品、小型家電、家電4品目、不燃粗大ゴミなど幅広い品目を処理対象物とした「V-BUSTER」の製造を手掛け、金属リサイクル業界向けの販売を強化している。



来年4月の稼働を目指すTOMOE FACTORYの建設パース